

# 文末名詞としての「기세」について -ブログの用例を中心に-

呉守鎮・大西美穂  
漢陽大学校・名古屋短期大学

## 1.はじめに

韓国語には「名詞+コピュラ」の形式が文末に出現し、モダリティ形式として定着しているものが多数存在する。例えば、韓国語の形式名詞「것」の場合、コピュラ「이다」が後接することによって、「説明」や「推量」の意味を体現し、「것이다」は安定したひとまとまりの形式であると言える(안효경 2001)。また「법」「모양」のような、実質名詞と形式名詞といった両方の性質にまたがっているものにおいても、コピュラ「이다」が結び付いて、「법이다」は「一般的傾向(当為)」、「모양이다」は「推測」を表すなど、モダリティ形式として位置づけられる(안주호 1997、안효경 2001、남길임 2004)。

しかし、上記のような名詞とは異なり、「눈빛」「기세」などは実質名詞として語彙的意味が強いものでありながら、以下の(1)(2)のように、文末に用いることができる。

(1) 그는 뭔가를 구걸하는 눈빛이었다<sup>1)</sup>。

「彼は何かを求めている眼差しだった。」

(2) 그는 웃을 때와는 달리 다부지게 따질 기세이다。

「彼は笑う時とは違って気丈に迫及する勢いだ。」(남길임 2004:114)

これらは例えば「그는 올해 입사한 신입사원이다。」のようなコピュラ文の構造と類似しているように見える。しかし、「그는 신입사원이다。」は成立するのに対し、以下の(1')と(2')の場合、非文になることから、文末にコピュラと組み合わせられて用いられる「눈빛」と「기세」はコピュラ文とは異なる。

(1') \*그는 눈빛이었다。

「\*彼は眼差しだった。」

(2') \*그는 기세이다。

「\*彼は勢いだ。」

남길임(2004)では(1)(2)のような形式を「属性的NP構文2」と名付けており、新屋(1989、2014)では「文末名詞文」、角田(1996)では「体言締め文」、角田(2011)では「人

魚構文」と呼んでいる。ここでは以上のような特徴を持っている名詞を「文末名詞」とし、このような一連の形式を新屋(1989)に見倣い、「文末名詞文」と呼ぶことにする。

本研究では多くの文末名詞のうち、(2)の韓国語名詞「기세」に着目する。日本語名詞「勢い」に対応する「기세(氣勢)」は本来①「기운차게 펼쳐는 모양이나 상태(力強く発する様子や状態)」、②「남에게 영향을 끼칠 기운이나 태도(人に影響を与える気運や態度)」という意味で使用される。その例文として前者は(3) (4)、後者は(5) (6)に当る。

(3) 그녀의 상냥함에 그의 기세가 누그러지는 것 같았다.

「彼女のやさしさに彼の勢いが和らぐようだった」

(4) 어둠 속에서 불길은 기세 좋게 타올랐다.

「暗闇の中で炎は勢いよく燃え上がった。」

(5) 그는 조금도 양보할 기세가 없었다.

「彼は少しも譲歩する勢いがなかった。」

(6) 금방이라도 달려들 기세다.

「今にも飛び付いてくる勢いだ。」

(국립국어원 표준국어대사전, <http://stdweb2.korean.go.kr/main.jsp>)

特に(5) (6)のように「人に影響を与える気運や態度」の意味で使われる場合、「기세」は単独で現れることなく、連体部を必須とする統語的制限がある(국립국어원 표준국어대사전)とされる。

近年インターネットのブログなどでは実質名詞の「기세」が文末に生起する例が頻繁に観察される。

《올리브ヤングに行くたびにマスク팩を購入する自分に対して》

(7) 올리브 영 팩!! 다 살 기세 ㅋㅋ

「올리브ヤング(のマスク)팩!! 買い占める勢い(笑い)。」

(<http://blog.naver.com/jyj6626/220452120127>, 検索日:2016. 04. 08)

(7)の文末名詞の「기세」は連体部を同伴する点から(5) (6)の「기세」と同様の統語的特徴を持っているが、元々「기세」が有している語彙的意味とは異なり、なんらかの文法的機能を表していると思われる。

以上の点を踏まえて、本研究では文末名詞の「기세」に焦点をあてる。そして、この形式が文末で生起可能になった言語現象を探りながら、その機能や特徴を明らかにする。

## 2. 先行研究

文末名詞文は世界の言語において特殊な構文であり、アジアの7つの言語とアフリカの1つの言語にしか見つかっていない(角田 2011)とされる。その中でも、特に韓国語と日本語は文末名詞文が非常に発達しており、文末名詞文に関しては多くの研究が行なわれてきた(안주호 1997、안효경 2001、남길임 2004、新屋 1989、2014、角田 1996、2011)。

ここでは本研究の分析対象である「기세」に関する研究を紹介する前に、日本語の文末名詞文の研究を概観する。両言語は類型論的に多くの共通点を有しているとともに、近年韓国語の「기세」に対応する日本語の「勢い」においても、文末に生産的に用いられる現象が観察される。以下では日本語の「勢い」に関する先行研究と、実際、文末名詞として使用される「勢い」についてみる。

## 2.1 日本語の「勢い」に関する研究

日本語の文末名詞文の研究として、新屋(1989、2014)と角田(1996、2011)などがある。両者は語彙的な名詞とコピュラの組み合わせ、および形式名詞とコピュラの組み合わせ両方を、「文末名詞文」(新屋 1989、2014)、「体言締め文」(角田 1996)「人魚構文」(角田 2011)と名付けている。両者とも形式名詞の方はすでに文法化が進みこれまで多くの研究もされているため、重点をおいておらず、むしろ語彙的な名詞が文末で使われることに関心を向けている。一方、機能化した文末名詞の日韓対照研究として堀江・プラシャント(2009)、堀江(2014)が挙げられる。両者は日本語の「の(だ)」とそれに対応する韓国語の「것(이다)」や機能化が進んで文末で用いられる「こと」「もの」などについて考察し、これらを文末名詞化構文<sup>2)</sup>と呼んでいる。

それでは、本研究の分析対象である韓国語の「기세」に対応する日本語の「勢い」はどうであろうか。文末に生起する「勢い」に関して、綿密な分析を行なった先行研究はないようであるが、新屋(1989、2014)と角田(1996、2011)は文末名詞として「勢い」を取り上げている。

まず、新屋では主語と述語の意味関係によって文末名詞を7つに分類している。そのうち「勢い」は「C. 状況の様態を感覚的に把握」の類に含まれており、その他「感じ、様子、模様、状態、風、有様、形、風情、恰好、空気、気配、気色、態度、素振り、言い方、口調、口振り、表情、調子」などがこの類に下位分類されている。また、角田では名詞を大きく形式名詞と実質名詞とに分けた。まず、形式名詞にコピュラが後接する文末名詞文は「つもり」「はず」「わけ」「もの」「次第」「方、向き」「一方」「ところ」「こと」「由」などがある。さらに、実質名詞にコピュラが後接する文末名詞文は12種類であり、「勢い」は「段取り、運び、見通し、見込み、予想、方向、流れ」と同じく「段取り、見込み」の類に分類されている。

つまり、新屋、角田では文末名詞として「勢い」について言及してはいるものの、具体的な例やその機能については述べられていない。しかし、以下に示されるように、日本語の「勢い」は近年文末名詞としてインターネットなどでよく見受けられている<sup>3)</sup>。

- (8) 森永のフリーズドライ甘酒が好き過ぎて、これが置いてあるだけでそのスーパーを好きになる勢い。(twitter:@yukosnaps 2016-01-20)
- (9) 普段は全然歩かなくて「だっこ、だっこ！」ですが、水たまりが大好きです。台風が近づいて風が強くなってくると、もう興奮してどこまでも歩く勢いです。(Yahoo! 知恵袋 2005)

上記の例では「勢い」を主要部名詞とする節には、ある主体がなんらかの行為を行ったり、変化を被ったりすることが表現されている。その行為や変化は非タ形で現実の描写ではなく、前後の文脈で示される好悪の感情や物の属性がどの程度の感情や属性であるか、その程度が甚だしいことを伝えるための一種のレトリックであることが見て取れる。つまり、(8)は好ましさの度合い、(9)は好ましく思う程度が強いことを示している(ONISHI・OH 2016)。それでは以下の例はどうであろうか。

- (10) この牛は、茸毛めいた斑毛で、その長い角が犀を思わせるような巨牛である。四つ肢はがっしりと巨体を支え、眼光もらんらんと鋭く、まさに象もひれ伏すような勢である。(鎌田敏夫著『新・里見八犬伝』, 1982, 913)
- (11) 半蔵のそばの右源太が今にも飛びだしかねない勢で、指令をあおいだ。(南原幹雄著『寛永風雲録』, 1986, 913)
- (12) すっごい小さいお店なのに、何時間でも居れちゃう勢い。(私信)

(10)(11)では「ような」と「かねない」の形式で「勢い」を名詞修飾している。意味の構造は、「この牛」の属性や「右源太」の行為がどのような勢いであるかを述べているため、普通の連体修飾節であり、語彙的意味が濃厚に残されていると言える。

これに対し、(12)は(10)(11)と同じような構造を持ちながらも、(12)では「店」の勢いではなく、「店の居心地のよさ」という判断や評価の度合いが極めて高いということを表している。このように、(8)(9)と同じく、(12)のような日本語の「勢い」の用法が広がりを見せている。

このような「勢い」の新たな機能は、以下に示されるとおり、「勢いで嬉しい」「勢いで嫌がる」のようなタイプ、つまり文末ではなく文中で副詞として働いている「勢い」の用法と密接な関わりがあると考えられる。

- (13) 私の恋の事についての質問です。私は今中2なんですけど、(中略)好きなんやったら好きで死にそんな勢いで嬉しいんですけど、真剣に悩んでるんです。(2010/4/11 Yahoo! 知恵袋)
- (14) 職場で自分の苗字をかなりな勢いで嫌がっている女性がいます。独身女性です。(2016/2/10 Yahoo! 知恵袋)

(13)では「勢いで」が「嬉しい」のように属性や感情を表す述語に対して、嬉しさ

の度合いが高いといった、その感情の程度を述べる際に用いることができる。さらに(14)の「嫌がっている」のように好ましくない感情の程度が強いことを表していると解釈することも可能である。つまり、文中から文末へ「勢い」の用法が拡張したものと見られ、その動機として、「勢い」を含む節の情報の重要さが増したことが考えられる。(13)や(14)のような従属節としての副詞節から、(8)や(9)のように文の後方で主節としての用法へと発展し、さらに(12)のように「勢い」の節が自立的に用いられるケースへと連続的であると言える。

以下では文末名詞として用いられる日本語の「勢い」の用法を踏まえながら、韓国語の「기세」に関する研究を紹介する。

## 2.2 韓国語の「기세」に関する研究

남길임(2004)では韓国語の文末名詞を心理的状态を表す「작정이다」類と、様子や表情及び外的状況を表す「표정이다」類とに分類している。そして、前者は「작정、예정、생각、각오、심정、기분、느낌」、後者は「표정、태세、기세、눈빛、시늉、상황、처지、형편、입장」などの名詞があり、これらの文末名詞とモダリティ形式との統語的相違として人称制限をあげている。

(15) 그때는 {나도 / 너도 / 그도} 참 유별났던 모양이다.

「その時は {私も / あなたも / 彼も} 実に変わったようだ。」

(16) {내가 / 네가 / 그가} 그 사람을 살린 셈이다.

「{私が / あなたが / 彼が} その人を助けたわけだ。」

(17) {나는 / \*너는 / \*그는} 내일 출발할 예정이다.

「{私は / \*あなたは / \*彼は} 明日出発する予定だ。」

(18) {\*나는 / 너는 / 그는} 몹시 괴로운 표정이었다.

「{\*私は / あなたは / 彼は} とても辛い表情だった。」

(19) 그 사람들 뿐만 아니라 {나도 / ?너도 / 그도} 어려운 상황이야.

「その人々だけでなく {私も / ?あなたも / 彼も} 難しい状況だよ。」

(남길임 2004:129)

(15)「모양이다」、(16)「셈이다」のようなモダリティ形式は人称制限がないのに対し、(17)の「예정」が含まれている「작정이다」類は心理的状态を表すため、1人称の主語<sup>4)</sup>のみを必須とする。さらに、「표정이다」類のうち、「표정、태세、기세、눈빛、시늉」の場合、(18)の「표정」のように、1人称の主語は不適切で2、3人称の主語のみ求められる一方で、「상황、처지、형편、입장」などはよりその人称制限がゆるいと記述している<sup>5)</sup>。

具体的には「표정이다」類に含まれている「기세」を取り上げる。남길임(2004)では「기세」を文末名詞の1つとして位置づけながら、その特徴について論じている。

(20) {\*나는 / 너는 / 그는} 웃을 때와는 달리 다부지게 따질 기세이다.

「\*私は / あなたは / 彼は} 笑う時とは違って気丈に追及する勢いだ。」

(남길임 2004:129)

(20)では主語のなんらかの外的な状態を見て「気丈に追及しようとする」というその勢いを推測するだけで、主語が「気丈に追及するかどうか」に対する行為の事実性は問題にしない。また、「기세」は外的な状況や状態を表すことができるなかで、1人称を除き、2、3人称の主語に限って共起可能である。

その理由として1人称の主語は自分の外的な状態を観察することが難しいためであり、これは名詞「기세」の語彙的意味と「기세」の前に必ず置かれる連体修飾節の内容と深く関係しているという(남길임 2004)。しかし、以下の(21)に示されるとおり、今まで共起不可能であった、「기세」が1人称の主語を取る場合がある。

《ゲーム機から人形を取りまくっている自分に対して》

(21) 인형 뽑기 달인이 될 기세입니다....ㅋㅋ

「人形取りの達人になる勢いです(笑い)。」

(<http://blog.naver.com/abtuz/220639712110>, 検索日:2016. 04. 08)

このような用例は近年インターネットのブログで頻繁に見られており、主語は文内に明示されていないが、文脈内からブログの書き手が主語になることが分かる。(21)は連体修飾節の主要部名詞に「기세」が生起する構造になっているものの、その「기세」が「人形取りの達人になる」というその出来事の様態を表しているとは考えられない。この場合、描写の対象となる出来事「人形取りの達人になる」に対するなんらかの文法的機能を表そうとしていると思われる。

1章でも述べたように、(22')は不適切であることから、述部の主要部である名詞に意味の焦点があるコンピュータ文とは異なって、文末名詞の「기세」は主要部名詞ではなく、その前におかれる連体部に意味の焦点があると解釈できる。新屋(2014:92)は「実質的意義を連体部に預けた文末名詞は、述定の意味そのものを担うことにより、それぞれの語彙的意味に従って主観、説明、アスペクト、伝聞などを表わすモーダルな成分に近づいているのである」としている。このことは文末名詞の「기세」が「것 같다」「일지도 모른다」などのような、モダリティ形式と似たような機能的役割を担っている可能性を示唆するものと考えられる。

(22) 나는 인형 뽑기 달인이 될 기세이다.

「私は人形取りの達人になる勢いだ。」(例文(21)を改変)

(22')\*나는 기세이다.

「\*私は勢いだ。」

先行研究の解説では(21)の文末名詞の「기세」の意味用法を明確に説明することができないが、「기세」を文末名詞の1つとして認めている点やその機能および人称制限などについて触れていることは本研究を進める上で非常に有力な手がかりとなる。そして、近年インターネットのブログなどで3人称はもとより、1人称の主語が文末名詞の「기세」と用いられる例がよく見受けられているなど、ブログの用例を中心にしてその機能や特徴をより精密に分析する必要があると考えられる。

### 3. 調査方法と分析

本章では文末名詞の「기세」について分析する。まず、従来文中または文末に出現する「기세」の用法を再検討するため、「국립국어원 언어정보나눔터 말뭉치(以降「コーパス」と呼ぶ。)」を用いる。これは既存の「기세」の形態的・統語的特徴や生起頻度を調査するとともに、そのデータの分析を通して新たな文法的機能が見られる文末名詞の「기세」と比較するためである。さらに、実際文末名詞の「기세」がどのように用いられているのかを調べるために、インターネットのブログに焦点を当て、そのデータを収集することとする。その理由としては、남길임(2004)で取り扱っていなかった、「기세」が担っているある種の文法的機能がインターネットのブログで頻繁に観察されているためである。

「ブログとは、ウェブログ(Weblog)の略称で、もともとは、自分の興味のあるWebページのリンクとそれに対するコメントからなる個人サイトを指すことばであったが、最近では日記やエッセーなど多種多様な内容が公開されており、ネット日記の形式に近いものとしてとらえられはじめている(岸本 2005:205)」とされる。ブログでの無標形式が終止形であることは間違いないが、接続形式、連体形、名詞、さらに「~로, 음」「~기」と代表される名詞化辞などの言語形式で文を終結することも可能である。特に名詞の「기세」の場合、そもそも1人称の主語と共起できない統語的制約があったが、ブログにおいては1人称の主語を取る用例がよく見られる。

さらに、ブログというのは書き言葉と話し言葉の中間に位置するジャンルであるとも言えることから、コーパスから得られるデータは書き言葉が殆んどであるといったジャンルの片寄りを補完することができると考えられる<sup>6)</sup>。次節では、コーパスに現れる「기세」と、ブログに現れる「기세」とに分けて分析を行なう。

#### 3.1 コーパスに現れる「기세」の特徴

韓国語がSOV言語であることを考えると、一般的に名詞は主語や目的語になりやすく、名詞が述部に生起する可能性はより低いが、文末名詞が発達している韓国語と日本語において文末の位置に名詞が現れることは決して稀でない。

以下では「コーパス」を用いて、連体修飾節を伴う「기세」において生起位置を文中と文末に分け、調査を行った。そして、その生起頻度を「기세」の前に置かれる連体形、つまり「기세」を修飾する連体部の時制別にまとめた結果、表1ようになる。

表1 コーパスに現れた「기세」の生起頻度<sup>7)</sup>

連体部の時制	「기세」	
	文中	文末
過去	8	-
現在	46	8
未来	27	38
合計	81	46

その結果、表1から分かるように「기세」において文中では合計81例、文末では合計46例が見られた。まず、文中に出現する81例の「기세」のうち、「現実」を表す過去・現在連体形が前接する場合はそれぞれ8例、46例であったのに対し、「非現実」を表す未来連体形が前接する場合は27例であった<sup>8)</sup>。特に、現在連体形が前接する46例のうち、26例が「맹렬한 기세로」「무서운 기세로」のように属性や状態を表す形容詞が「기세」を修飾するようなパターンであった。さらに、10例は「것 같은」「듯한」のような現在連体形の形態をとっているものの、非現実世界を表象するなど、語彙そのものの意味によってまだ行なわれていない「非現実」と捉えていることが分かった。この場合は未来連体形に類似した働きを果たしていると考えられる。

つまり、文中で用いられる「기세」は過去連体形(8例)に比べ、現在・未来連体形(合計73例)との組み合わせが圧倒的に多い。また、具体的には対象となる出来事に対してまだ行われていない「非現実」を表すことも可能であれば、すでに行われた出来事や現在行われている出来事に対しても多く使われているということが確認できた。例えば、文中で用いられる「기세」は以下の(23)の通りである。

(23) (前略) 그는 담배도 끊고 무서운 기세로 일을 하기 시작했다.

「(前略)彼はタバコも辞めて恐ろしい勢いで仕事をやり始めた。」

(박낙원 『고객과 경쟁하라』 2002)

(23)では「仕事をやる」という行為の主体は「彼」であり、「彼は仕事をやる」という出来事全体を「기세」という様態で描写しており、これは「기세」が実質名詞として使われているということを示す。言い換えれば「기세」は「仕事をやる」という行為の様態を表していると言える。

一方、文末に現れる46例の「기세」のうち、前接する連体形として現在連体形が8例、未来連体形が38例であった。しかし、文中の「기세」とは異なって、過去連体形が前接する用例は見られなかった。というのも、남길임(2004)でも言及しているように、文末名詞の「기세」は行為の様態を表す語彙的な意味が残されており、そしてその行



為が真であることを前提としないため、少なくとも「기세」を修飾する連体部の時制が過去になることは難しいと思われる。

また、文末に生起する「기세」は現在連体形の8例を除き、38例が未来連体形と共起するなど、圧倒的に未来連体形と組み合わせられることが多かった。さらに、現在連体形と共起する8例のうち、7例は「것 같은」「듯한」のような形式が前接するなど、「非現実」と捉えられる出来事について述べているという特徴が見られた。以下、コーパスから得られた文末の「기세」の例を提示する。

(24) 어딘가에 가서 폭탄이라도 터뜨릴 기세였다.

「どこかへ行って爆弾でも爆発させる勢이었다。」

(이승우『식물들의 사생활』2001)

(24)では「行く」と「爆発させる」という行為の主体は文の要素として現れていない。その際、「勢い」は「爆発させる」という動詞句レベルの行為の勢いと解釈することができる。と同時に「どこかへ行って爆弾でも爆発させる」という文レベルを修飾する行為主体の勢いとして解釈することも可能であり、(24)のような文末の「기세」の解釈は曖昧である。これは3.2節で後述するが、コーパスから見られる文末の「기세」は出来事に対する行為の様態を表すことと、その出来事に対する評価や感情、欲求などの度合いを強めて表現しようとするこの間でゆれが窺える。

なお、(25)のように複数を示す接尾辞の「들」が「기세」に後接する場合もあれば、(26)の場合、「그런」のような連体詞が「기세」に前接することもあるなど、これらは「기세」が文末に現れるものの、語彙的な意味の強い実質名詞として使用されることを裏付ける。

(25) 마치 도끼라도 한 자루씩 집어 들고 타임머신을 타고 2003년의 김동훈에게로 달려가기라고 할 듯한 기세들이었다.

「まるで斧でも一本ずつ取り上げてタイムマシンに乗って2003年の김동훈に駆け付けでもするかのような勢이었다。」

(채영주『시간속의 도적』1993)

(26) 그들이 어떤 일이고 저질러 놓지 않고는 직성이 풀리지 않을 그런 기세였다.

「彼らが何かの事を仕出かさないと気が済まないそのような勢이었다。」

(이영호『열두 컷의 낡은 필름』1991)

文末名詞として使われる46例のうち、このような形態・統語的特徴は41例観察されており、過去を表すマーカーと共起しないのは5例にすぎない(例えば「기세네」「기세다」「기세더라구」など)。厳密に言うと、「기세」と過去を標識する「~였」が結合した41例のうち、「기세였다」が34例を占めているなか、その他「기세였지」「기세

였어요」 「기세였고(言いさし)」などがあつた。このことから、コーパスから抽出した文末の「기세」においては「기세였다」が典型的なパターンと言ってよからう<sup>9)</sup>。これは先行研究やブログで観察される文末名詞の「기세」とは異なる形態・統語的特徴でもある(詳細は3.2節をご参照)。

以上、コーパスから見られる分析の結果をまとめると、文中の「기세」は連体形の時制においてばらつきがあるが、現在・未来連体形を好む傾向がある。これに対して、文末の「기세」のほうがより前接する連体形の時制に制約があり、未来連体形が前接する頻度が圧倒的に高い。さらに、過去を表すマーカーと結合した「기세였다」のような形式が生産的に観察されていることが確認できた。

コーパスでは「기세」が含まれている文章と、その前後文章しか載っていないため、主語の人称の判別が難しい場合が非常に多く、「기세」と共起する主語の人称別生起頻度を数値化することは困難である。しかし、そのような状況の中で用例をみまると、今回の分析対象のうち、3人称の主語が標示されることはある程度見られるが、1人称の主語が観察されることは殆どなかった。これはすでに남길임(2004)が指摘した、文末名詞の「기세」の統語的特徴でもあり、コーパスの分析を通して文末に出現する「기세」の人称制限を再び確認することができた。

### 3.2 ブログに現れる「기세」の特徴

本研究は「기세」が、ただの行為の様態として使われるのではなく、文末においてある程度の文法的機能を担っているという認識から出発しており、その用例は近年インターネットのブログでよく観察されている。すでに先行研究でも述べているように、「기세」は2、3人称と共起可能であるが、1人称とは共起不可能という統語的制約があつた。しかし、「기세」がよく用いられるブログでは一般的に写真付きが多く、その書き込みというのは、載せた写真に対して描写・解説するようなパターンが多い。これは書き手自身のことを記述されやすいブログの文体的スタイルを考えると、先行研究では不可能と指摘されていた、1人称の主語を取る「기세」がブログで頻繁に観察されることは「기세」の人称制限がより緩くなったことを表すと考えられる<sup>10)</sup>。

次節では先行研究とは異なつてある種の文法的機能を表している、主語が3人称の場合と、先行研究では非文となる主語の1人称の場合の順に分析をする。

#### 3.2.1 主語が3人称の場合

남길임(2004)では、文末名詞文に現れる「기세」は2、3人称の主語に限られるとしている。また、本研究でもコーパスに基づき、「기세」と人称との共起関係を調べた結果、「기세」は3人称と共起する場合が多い。

以下の文末の「기세」は남길임(2004)とコーパスでも観察された、3人称の主語を取る場合であるが、それとは異なる新しい意味合いを表している。

《よく赤ちゃんを抱っこしている夫に対して》

(27) 아들이 이쁜지 모유수유까지 할 기세 ㅋㅋ

「息子がかわいくて母乳の授乳までやる勢い(笑い)。」

(<http://blog.naver.com/jbrz/220371271878>, 検索日:2016. 04. 02)

《すぐ寝てしまう犬に対して》

(28) 이름이 곰이라 그런가 곧 동면에 들어갈 기세예요ㄷㄷ

「名前が熊だからなのか、今にも冬眠をする勢いです(涙)。」

(<http://gomboojang.com/40175345411>, 検索日:2016. 04. 02)

(27)では、形容詞述語の「かわいい」という感情を持つ主体および「母乳の授乳までやる」という行為主体、また、(28)においては「冬眠をする」という非現実の出来事を遂行する行為主体は、文内には主語として生じていない。しかし、文脈内の記述から前者の主語は「書き手の夫」、後者の主語は「書き手の飼っている犬」であることが分かる。したがって、主語は3人称と考えられる。

これらの例の「勢い」は、前節の(24)とは異なって、(27)「母乳の授乳までやる」、(28)「冬眠をする」という行為の様態ではない。では、(27)(28)の「勢い」はいったい何を表しているのでしょうか。

具体的に、(27)では、この夫は赤ちゃんを産んだばかりの書き手よりも、生まれたばかりの赤ちゃんに気を取られて抱っこばかりしている状況である。そして、夫が母乳の授乳までしそうな、それほど赤ちゃんをかわいがっているという、その状況や感情など、その程度が甚だしいことを伝えるために「기세」が使用されると思われる。また、(28)においても同様で、熊と名付けられているこの犬が冬眠をすることはどうも考えられない。むしろ犬の頭が布団や飼い主の体の一部に当たるだけですぐ寝てしまうという、その行為の度合いが極めて甚だしいため、それを強くアピールして「冬眠する」と表現しようとしている。

また、以下の例においても同様のことが言える。文末の「기세」は、(29)では書き手の息子がスプーンまで食べてしまうかのようにおいしく離乳食を食べている状況、(30)では彼女は小顔で彼氏の手で顔が隠されるほど、顔が小さいということを誇張して伝えようとするものである。

《離乳食を食べている息子に対して》

(29) 우리 아들 아주 진지한 모습으로 스푼까지 먹을 기세네요.

「うちの息子はとても真剣な姿でスプーンまで食べる勢いです。」

(<https://blog.naver.com/88743603/50100871680>, 検索日:2018. 01. 15)

《小顔のお客さんに対して》

(30) 남친님이 손바닥 짝 퍼면 여친님 얼굴 다 가려질 기세.

「彼氏様が手のひらをぱっと広げれば彼女様の顔が全部隠される勢い。」

(<https://blog.naver.com/cui1006/221039242068>, 検索日:2018. 01. 15)

このように、ブログで観察される「기세」は主語が3人称の場合、当該の出来事に対してなんらかの主語の感情や欲求の程度が甚だしいことを表そうとしているという点で、남길임(2004)とコーパスで見られる用法とは多少異なることが確認できた。

### 3.2.2 主語が1人称の場合

本節では1人称の主語が「기세」と共起する場合について述べる。まず、以下の例を見られたい。

(31)인형 뽑기 달인이 될 기세입니다...ㅋㅋ (=21))

「人形取りの達人になる勢いです(笑い)。」

(32)올리브 영 팩!! 다 살 기세 ㅋㅋ(=7))

「オリーブヤング(のマスク)パック!! 買い占める勢い(笑い)。」

《ベッドで寝てられない自分に対して》

(33)눈이 부서서 못 누워있을 기세.

「目が眩しくて寝てられない勢い。」

([https://blog.naver.com/bubble\\_latte/221201129520](https://blog.naver.com/bubble_latte/221201129520), 検索日:2018.02.14)

《モヒート作りに慣れてきた自分に対して》

(34)눈감고도 만들 기세ㅋㅋㅋㅋ

「目をつぶっても作られる勢い(笑い)。」

(<https://blog.naver.com/eanjiang/220392985120>, 検索日:2018.02.14)

(31)「人形取りの達人になる」、(32)「パックを買い占める」という行為の主体は主語として標示されていないが、文脈の流れから書き手自身であることから、主語は1人称であることが分かる。まず、(31)では書き手自身がはじめてゲーム機から人形を取ってみたが、意外と人形がよく取れたのでお金さえあればどんどん人形を取りまくっている自分に気付いている。そして、「기세」は「人形取りの達人になる」というその状況に注目してその可能性を推測しているのではなく、人形を取ることに关しては達人になりそうな、それほど人形取りが得意だという書き手自身からの認識を強くアピールしようとしている。次に、(32)では書き手自身はオリーブヤングというドラッグストアでいろんなマスクパックを買い、すでにいっぱい持っているが、オリーブヤングに行くたびに「ついマスクパックをかう」という状況に焦点をあててその行為を推し量っているとは言いがたい。むしろ、その出来事に「기세」が付け加えられることによって、マスクパックを買いたいという、書き手自身の心理状態(欲求)を表現しようとしているのではないかと考えられる。また(33)は窓際の横にベッドがあり、日が昇ったらあまりにも眩しくてベッドで寝てられない状況、(34)はモヒートを何回も作ってみたため、モヒートなら目をつぶっても作られるという判断や感情などを「기세」を通してより強めて表そうとしている。

つまり、文末名詞として用いられる「기세」は、例えば「공을 던질 기세」のよ

うな「기운차게 뻗치는 모양이나 상태(국립국어원 표준국어대사전)」とも言える、何らかの運動や行為を通した物理的な速度や力を表しているとは言い難い。

本研究ではインターネットのブログから「기세」の新たな意味合いを紹介しているが、語彙的意味を表す名詞「기세」の生起そのものが衰退していることを言っているわけではない。インターネットなどでは現実世界で主語の動作を表す「기세」ではなく、話者の認識領域で感情や欲求を表すため、人称制限が中和されるのではないか。その結果「기세」は2、3人称に限らず、共起不可能だった1人称とも用いられたと考えられる。

また、文末名詞の「기세」は以下のように1人称の願望や欲求を表す「~고 싶다」が連体部に出現する場合がしばしば見られる。(35)を除き、(36)~(40)は主語が標示されていないが、文脈内から「기세」が1人称を主語としている例である。

《猫用の缶詰がおいしそうに感じられる状況》

(35) 뚜껑을 열었더니 내가 먹고 싶을 기세.

「蓋を開けたら私が食べたい勢い。」

(<https://blog.naver.com/typn25/220611822711>, 検索日:2018.01.15)

《カフェのインテリアが気に入っている状況》

(36) 친구들 불러서 당장 수다 떨고 싶을 기세였죠.

「友達を呼んで今すぐおしゃべりをしたい勢いでした。」

(<https://blog.naver.com/bodda819/220284692353>, 検索日:2018.01.15)

《ビートルムービーの大ファンである書き手自身のコメント》

(37) 비투비 모두랑 결혼하고 싶을 기세.

「ビートルムービーのみんなと結婚したい勢い。」

(<http://326.co.kr/220432464356>, 検索日:2018.01.15)

《パンが少ししか残っていない状況》

(38) 모형빵이라도 사오고 싶은 기세.

「模型のパンでも買ってきたい勢い。」

(<https://blog.naver.com/zhidaole/150107815849>, 検索日:2018.01.15)

《最近寒くなってきたと感じている状況》

(39) 빨리 후리스를 걸치고 싶은 기세.

「早くフリースを羽織りたい勢い。」

(<https://blog.naver.com/jmon0401/220141539585>, 検索日:2018.01.15)

《お気に入りの店に対するコメント》

(40) 도쿄스시 정식 먹으러 가고 싶은 기세예요!!

「東京寿司(店の名前)の定食を食べに行きたい勢いです。」

(<https://blog.naver.com/bysaeun/201106938>, 検索日:2018.01.15)

以上の例文を詳しく説明すると、(35)は「猫用の缶詰を開けてみたら自分が食べた

くなるほど匂いも見え目もおいしそうに見える」、(36)は「今すぐ友達を呼んでしゃべりたいほどカフェーの内部のインテリアがとても気に入っている」、(37)は「ビートゥービーの大ファンでメンバーのみんなと結婚したいほどみんなが大好きだ」、(38)は「人気ベーカリーに行ったが、パンがほとんど売り切れで少ししか残っていないから残念で飾りの模型のパンでも買いたい」、(39)は「最近暖かいフリースを羽織りたいほど寒くなってきた」、(40)は「東京寿司の定食は毎日食べたいと思うほどリーズナブルな価格であまりにもおいしい」という状況である。そして、文末に現れる「기세」はそれぞれの出来事に対する評価や感情の度合いが極めて高い程度を与える機能になっていると考えられる。

特にブログにおいて文末名詞の「기세」は3人称に比べ、1人称の主語が生起する場合がより多く、そもそも1人称の主語と共起しやすい「~고 싶다」が「기세」の連体部に現れることもよく見られる。文末名詞文の場合、連体部に意味の焦点があることから、「~싶은/싶을」の連体部を(35')~(40')に示される通り「~고 싶다」のような終止形で文を終えてもいい。さらに、筆者の直感だと出来事に対する1人称の欲求や感情などを表す連体部の「~싶은/싶을」を省略しても問題なく文は成立する。これは「기세」で締めくくられることにより、当該の出来事に対する評価、感情、欲求などの程度が甚だしいことを表現しているのではないかと考えられる。

(35') 뚜껑을 열었더니 내가 {먹고 싶다 / 먹을 기세}.

「蓋を開けたら私が {食べたい / 食べる勢い}。」

(36') 친구들 불러서 당장 {수다 떨고 싶다 / 수다 떨 기세이다}.

「友達を呼んで今すぐ {おしゃべりをしたい / おしゃべりする勢いだ}。」

(37') 비투비 모두랑 {결혼하고 싶다 / 결혼할 기세이다}.

「ビートゥービーのみんなと {結婚したい / 結婚する勢いだ}。」

(38') 모형빵이라도 {사 오고 싶다 / 사 올 기세이다}.

「模型のパンでも {買ってきたい / 買ってくる勢いだ}。」

(39') 빨리 후리스를 {걸치고 싶다 / 걸칠 기세이다}.

「早くフリースを {羽織りたい / 羽織る勢いだ}。」

(40') 도쿄스시 정식 먹으러 {가고 싶다 / 갈 기세이다}.

「東京寿司(店の名前)の定食を食べに {行きたい / 行く勢いだ}。」

### 3.2.3 코ピュ라의有無による機能の相違

本研究で取り上げている文末名詞の「기세」の用例をみると、コピュラが付いている場合もあれば、コピュラが付いていない場合もある。特に、コピュラ付きの「기세이다」においてはバリエーションがあるが、大きくコピュラ付きの「기세(이)다」とコピュラ無しの「기세」が散見される。このように、コピュラの有無は文末名詞文にどのような影響をもたらしているのだろうか。

堀江・プラシャント(2009)によると、日本語の「の(だ)」「こと(だ)」「もの(だ)」「わけ(だ)」などはコンピュータの有無によって文法的意味を異にし、コンピュータ付きに比べてコンピュータ無しのほうがより語用論的・文脈的解釈の幅が広いとしている。さらに、韓国語の「것(이다)」は、未来連体形が前接しコンピュータを伴うと「推量」を表すのに対し、コンピュータを伴わない場合は「命令・指示」を表すなど、両言語ではコンピュータの有無による機能上の相違が見られるという。

しかし、本研究の分析対象である「기세」においては、上記の形式のようにコンピュータの有無による意味的な相違は見られない。単独で文末に「기세」が生起する場合、書き手自身が、その場で感じている気持ちを直接表しており、コンピュータがないことで、時制もなくなりより直示的になり、生き活きとした表現になると思われる。これに対し、「기세」にコンピュータが伴っており、さらにコンピュータ「이다」は日本語の「です」のような聞き手への敬意を表す標識が付け加えられた「예요」「입니다」の形態で現れている。これは不特定多数の読み手を想定しているブログの特性による産物であり、単に読み手に対する書き手の丁寧な態度を示しているものと考えられる。

つまり、ブログで見られる「기세」はコンピュータの有無にこだわらず、3人称や1人称においても用いられると同時に、当該の出来事に対して、感情や欲求を持つ主体の認識を表現するなど、その認識領域をより強くアピールする機能を果たしていると考えられる。さらに、3.1節で述べたように、コンピュータの過去形の「~였」を組み合わされる「기세였다」はコーパスの調査を通して典型的なパターンであることが分かった。これに対して、ブログにおいても「기세였다」のような形式はもちろん観察されるが、圧倒的に多く見られるのはコンピュータの過去形の「~였」が標示されていない場合であると言える。

#### 4. おわりに

本研究は文末に出現する「기세」に注目し、その文法的機能や特徴を考察したものである。今まで韓国語学において남길임(2004)を除き、「기세」を文末名詞として取り上げることはほとんどなかった。しかし、ここで着目すべきは、近年インターネットのブログなどで頻繁に観察されていると同時に、ある種の文法的機能を体現しているということである。以下、本研究と通して明らかになった点を簡単にまとめる。

まず、形態・統語的観点からすると、コーパスで観察される「기세」は過去を表す標識と組み合わせられた「기세였다」の形式で現れることが多かった。これに対して、ブログで観察される「기세」はコンピュータ無しの「기세」と、コンピュータ付きの「기세이다」が多いが、その他「기세예요」「기세입니다」など丁寧度を表す変異形が見られた。さらに、コーパスでは主に3人称が観察されるなかで、1人称においては共起できない制約があったのに対し、ブログでは既存の人称制約から解放され、3人称のみならず1

人称においても生産的に観察された。

次に、意味的観点からすると、コーパスに現れる「기세」は先行研究でも論じたように推測の意味を表し、まだ行為の様態を表す「기세」の語彙的意味が残されている。一方、ブログに出現する「기세」はその前に置かれる連体修飾節の内容(当該の出来事)に対する様態に注目しているというより、当該の出来事に対する感情や欲求など、認識的な領域を強めて表そうとするための手段として用いられているということが分かった。

韓国語の「기세」は「모양」「법」のように完全に定着した文末名詞文とは言い難い。しかし、「기세」が文末に現れる場合、「기세」の語彙的意味が薄れてきており、特にブログで現れる文末の「기세」は先行研究やコーパスとは異なった文法的機能が表われるのは確かである。ジャンルの限定や定量調査の必要性など残された課題も多いが、これは今後の課題にしたい。

#### 《柱》

- 1) 以下例文の日本語訳は筆者による。また、本研究の研究対象(と関わる形式)に関しては一重線(\_\_\_\_)で示す。
- 2) 堀江(2014:33)は、「文末名詞化構文は日本語の「の」や対応する韓国語の「것」のように文を名詞化する形式が単独、またはコンピュータの「だ」や「이다」とともに「のだ」「것이다」という形で文末の位置で述語として用いられるもの」と述べている。
- 3) 日本語の「勢い」の用例は国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)から採取したものである。
- 4) 例文(17)に示されている「는」は主題を標示する要素であるが、主語が主題化されていると考えられ、「主語」という用語を用いる。本文の以下も同様である。
- 5) 文末名詞における主要部名詞の人称制約は特殊な現象ではない。例えば日本語においても「\*彼は泣きたい思いだ」「\*彼は夢を見ている気分だ」のように、日本語の名詞「思い」「気分」は3人称といっしょに共起すると非文になる。これらの場合、平叙文であれば主語は1人称、疑問文であれば主語は2人称に限って共起できるという(新屋 1989:78)。さらに、日本語の「思い」「気分」に対応する韓国語の名詞「심정」「기분」(작정이다類)においても同様に平叙文であれば主語は1人称に限って用いられる(남길임 2004:129)。
- 6) 今回の分析では自然会話における話し言葉の「기세」の傾向を調べることはできなかった。より詳細な分析は今後の課題にしたい。
- 7) 表1のデータは국립국어원 언어정보나눔(<https://ithub.korean.go.kr/user/corpus/corpusSearchManager.do>)の말뭉치から用例を集計したものである。コーパス分類は「현대문어」、媒体は「전체」にし、加工形態は「형태분석」を選んだ。そして、単語検索には「기세」を入れ、品詞は「일반명사(NNG)」にして用例を集めた。その結果、合計436例が確認できたが、連体部を伴う用例は127例に過ぎなかった。さらに、コーパス分類を「현대구어」に設定し、他のカテゴリーは同一にしたが、わずか4例しかなかった。



その中でも分析対象となる、連体部を伴う用例は1例もなかった。

- 8) 韓国語の連体形語尾は大きく「現実(realis)」「非現実(irrealis)」と2分類され(堀江 2002)、過去・現在連体形は「現実」、未来連体形は「非現実」と大別される。
- 9) 表1の結果を参考にし、文末に現れると同時に連体部を伴う「기세」を「기세(이)다」と「기세였다」という2つのパターンで調べた。そして、コーパス分類は「현대문어」、媒体は「전체」にし、加工形態は「원시」を選んだ。その結果、「기세이다」は2例、「기세다」は47例、「기세였다」は62例が見られるなど、「기세」にコピュラが付く場合はコピュラの縮約形である「기세다」が好まれる傾向があった。さらに、表1の結果と同じく文末に「기세」が生起する場合、「기세였다」のように過去を表すメーカーと共起することが多かった。
- 10) 査読者からブログに生起する文末名詞として「기세」のように人称制限が緩くなり、2、3人称のみならず1人称と共起することになった名詞を提示する必要があるというコメントを頂いた。しかし、남길임(2004)で取り上げている、人称制限のある「기세」「태세」「표정」「눈빛」「시늉」のような文末名詞のうち、ブログで頻繁に見られるのは「기세」である。「태세」「표정」「눈빛」「시늉」が生起するジャンルや人称制限については今後より豊富なデータに基づいて調査を行いたい。

#### 《参考文献》

- 안효경(2001) 『현대국어의 의존명사 연구』 도서출판역락
- 안주호(1997) 『한국어 명사의 문법화 현상 연구』 한국문화사
- 남길임(2004) 『현대 국어 「이다」 구문 연구』 한국문화사
- 岸本千秋(2005) 「ネット日記における読み手を意識した表現」三宅和子・岡本能里子・佐藤彰(編)『メディアとことば2』ひつじ書房, pp. 204-231
- 新屋映子(1989) 「文末名詞について」『国語学』159, pp. 1-14
- 新屋映子(2014) 『日本語の名詞指向性の研究』ひつじ書房
- 角田太作(1996) 「体言締め文」鈴木泰 角田太作(編)『日本語文法の諸問題：高橋太郎先生古希記念論文集』ひつじ書房, pp. 39-161
- 角田太作(2011) 「人魚構文：日本語学から一般言語学への貢献」『国立国語研究所論集』1, pp. 53-75
- 堀江薫(2002) 「日韓両語の補文構造の認知的基盤」大堀壽夫(編)『認知言語学Ⅱ：カテゴリー化』東京大学出版会, pp. 255-276
- 堀江薫・ブラシャント・パルデシ(2009) 『言語のタイポロジー—認知類型論のアプローチ』研究社
- 堀江薫(2014) 「文末名詞化構文の相互行為機能—日韓語の自然発話データの対照を通して—」井出祥子 藤井洋子(編)『解放的誤用論への挑戦』くろしお出版, pp. 33-55
- ONISHI, Miho. and OH, Sujin. 2016. *The Use of the Noun Ikioi in Japanese and Kisey in Korean in Sentence-final Position*, The 24<sup>th</sup> Japanese/Korean Linguistics Conference(J/K24). National Institute for Japanese Language and Linguistics(NINJAL). October 14-16, 2016.

On Korean Noun *Kisey* as a Sentence-final Noun  
–with focus on its usage in blogs–

Sujin OH and Miho ONISHI  
Hanyang University / Nagoya College

This paper investigates the functionalization of a Korean expression *kisey-ita*, “momentum-COPULA”. The noun is recently occurred in the sentence-final position and its lexical meaning is attenuated. We conducted the corpus analysis and the semantic analysis.

First, we found a grammatical difference between our corpus and weblog data. In corpus data, as argued in the previous studies, first-person subjects are not observed and only third person subjects are allowed. In weblog data, in contrast, there is no such person restriction. Both first and third person subjects are productively used. Although such person restrictions are not found in its Japanese counterpart *ikioi-da*, Japanese data also shows the functionalization of the expression in the sentence-final position.

Second, semantic analysis also indicates the neutralization of the person restriction in our weblog data. The sense of “physical momentum” in the content domain is extended to the sense of “emotional momentum” of the subject that is interpreted in the epistemic domain.